

【逗子の分離独立運動の沿革】

昭和18年4月、横須賀海軍司令部は、指令系統を簡略化するため逗子町など三浦郡の6町村を横須賀市と強制的に合併させた。

昭和23年、地方自治法が改正され、「戦時中に強制的に合併させられた市町村は、住民の意思によって元の姿に戻ることができる」ことになった。期限は「昭和25年7月末まで」の2年間とされた。

昭和24年11月、逗子文化青年団の山口（旧姓高山）茂代表を中心に、亀井児童公園に隣接する逗子会館で「逗子分離独立の是非」を問う討論会が開催され、逗子文化青年団・逗子医師会・逗子銀座商店会を中心に「逗子独立期成同盟会」が結成され分離独立運動が本格化した。

そして、昭和25年3月、住民投票が行われ、8割以上の賛成票を獲得した。期成同盟会は新たに「逗子愛町連合会」を結成し、神奈川県内の県議会議員宅を精力的に訪ね、分離独立の賛成を呼び掛けた。県議会は昭和25年5月に開催され、賛成29、反対24、白票1となり、分離独立を正式に承認した。

昭和25年7月1日、逗子町は横須賀市からの分離独立を果たした。その4年後の昭和29年4月15日、市制施行により市に移行した。

平成21年、分離独立運動を後世に伝えるため、山口茂氏を会長に「逗子独立奉賛会」が設立された。同年11月23日、亀井児童公園に独立記念碑が建立された。

平成30年10月11日、独立奉賛会は市議会に「逗子独立誕生日を市の記念日とする陳情」を提出、11月7日、総務常任委員会にて全会一致で了承された。これを機に「分離独立記念日（7月1日）」は、市制記念日（4月15日）と並ぶ市の記念日となった。

逗子の分離独立と分離独立記念日制定に到る先人の努力を顕彰し、ここに記す。

令和4年3月

逗子独立奉賛会